

Nagano

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00053509

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



20. 長野県 追補

大塚孝一 (〒381-0075 長野市北郷 2054-120 長野県環境保全研究所 TEL:026-239-1031, FAX:026-239-2929)

(A) 植物誌

1) 県植物誌：『長野県植物誌』(1997年刊行)の改訂を目指し、長野県植物研究会が中心になって追加修正資料を集め、長野県植物研究会誌に「長野県植物誌補遺」として毎年報告を載せている。2012年現在、補遺はno.1～no.15まで出ている。また、長野県植物研究会が設立50周年となる2017年度には、最新版の「長野県植物誌総目録」を刊行する予定で取りくんでいる。

2) 郡誌等：下伊那誌編纂会『下伊那誌生物編』(523項中の植物pp7-239, 2001), 三郷村誌編纂委員会『三郷村誌Ⅱ第1巻自然編』(植物pp183-313, 三郷村誌刊行会, 2004), 浅野一男『阿南町の植物』(425項, 阿智村, 2005), 明科町史自然編纂委員会『明科町史自然編』(464項, 安曇野市教育委員会, 2006), 松田行雄『ミズゴケ類の国内分布—長野県産ミズゴケ類の分布から—』(83項, 松本, 2012)。
3) 一般向けの植物解説書等：建設省中部地方建設局『天竜川上流の主要な植物』(194項, 1998), 今井健樹『信州 野山の花』(305項, 信濃毎日新聞社, 2003), 今井健樹・伊東昭介『信州のスマレ』(172項, ほおずき書籍, 2004), 大塚孝一『信州のシダ』(195項, ほおずき書籍, 2004), 長野林業技術協会編集『希少野生植物ハンドブック』(142項, 中部森林管理局普及指導課, 2004), 土田勝義・横内文人『しなの帰化植物図鑑』(223項, 信濃毎日新聞社, 2007), 宮入盛男『千曲川の植物』(178項, ほおずき書籍, 2007), 馬場多久男『花実でわかる樹木』(408項, 信濃毎日新聞社, 2009), 増田今雄『希少種はいま』(190項, 信濃毎日新聞社, 2010), 湯本貴和・須賀文編著『信州の草原 その歴史を探る』(175項, ほおずき書籍, 2011), 土田勝義監修・諏訪の自然を学ぶ会編集『霧ヶ峰の自然』(149項, ほおずき書籍, 2011), 土田勝義監修・星山耕一写真解説『信州の希少植物と森林づくり』(255項, オフィスエム, 2011), 馬場多久男・竹田正博・小澤正幸・百瀬剛・関岡裕明・大澤太郎・田中裕二『いっしょに探そう野山の花たち』(322項, 信濃毎日新聞社, 2012)。

(B) 研究機関

「信州大学」は理学部を主体に、農学部、教育学部ほか植物生態を中心に研究が進められている。また、「信州大学山岳科学総合研究所」が、山の環境と人間とのかわりに関する総合的研究を推進するため、2002年9月に設立された。「長野県環境保全研究所」は、1996年9月に長野市北郷(飯縄高原)に開所された「長野県自然保護研究所」が、2004年4月に長野県衛生公害研究所と統合され名称が変更されたが、長野県環境保

全研究所自然環境部(飯綱庁舎)として生物多様性の保全に関する調査研究等従前の業務を行っている。植物標本庫(NAC)は約16万5千点の維管束植物標本と約1万5千点のミズゴケ標本を所蔵している。『長野県環境保全研究所研究報告』を年1回発行し、第9号まで出ている。「筑波大学菅平高原実験センター」は標高約1,300mの高冷地にあるという立地条件に加え、広く多様な実験地、施設・設備を有し、生物科学、地球科学、農学などの自然環境に関連する研究の場となっている。「信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設」は、動植物の生態学や地球科学等の野外研究と自然環境教育の推進を目的として調査研究を行っている。「飯田美術博物館」は、地域の植物研究を主体に調査研究を行い、『伊那谷自然史論集』を発行している。

(C) 標本

信州大学植物標本庫(SHIN)は、2012年の信州大学自然科学館オープンに合わせ、その一角を占めることとなった。現在約30万点を所蔵する。長野県環境保全研究所(飯綱庁舎)植物標本庫(NAC)は約16万5千点の維管束植物標本と約1万5千点のミズゴケ標本を所蔵している。筑波大学菅平高原実験センターは維管束植物約5200点、蘚苔類850点を所蔵し、データベースとして公開している。他に植物標本を所蔵する機関として、飯田美術博物館(1万点所蔵)、松本市山と自然博物館(3万5千点所蔵)がある。

(D) レッドデータブック

『長野県版レッドデータブック非維管束植物編・植物群落編』(2005)が刊行された。長野県内で絶滅のおそれのある非維管束植物として、情報不足を含め275種類で、内訳は蘚苔類87種類、藻類14種類、地衣類82種類、菌類95種類である。また、存続が危惧される植物群落は、単一群落が69、複合群落が23で、計92群落である。『長野県版レッドデータブック維管束植物編』(2002)及び『同非維管束植物編・植物群落編』(2005)の改訂作業が2012年度に始まり、2013年度にそれぞれの改訂レッドリストが公表される。

長野市環境部環境管理課『大切にしたい長野市の自然』(305項, 長野市, 2005), 浅野一男『阿智村の植物レッドデータブック阿智(維管束植物編)』(425項, 阿智村, 2005), 塩尻市市民環境事業部環境保全課『残したい塩尻の動植物』(168項, 塩尻市, 2006), 千曲市・千曲市生物多様性保全協議会『千曲市板レッドデータブック』(325項, 千曲市, 2011)が公表された。

(E) 植物群落

その後の植物群落関係の出版物は特に見当たらない。